井手町 議会だより

第23号

平成20年（2008年）
11月発行

発行　井手町議会
編集　議会広報編集委員会
京都府綴喜郡井手町井手南玉水67
☎0774-82-6172　（直通）

開通を祝って ― きらきらランド少年少女合唱団 ―

新しくなった玉水こ線橋

もくじ

- 9月議会で決まったこと ―― 2P
- 町政を問う・一般質問 ―― 3P
- 議員研修報告 ―― 10P
- 委員会報告・意見書 ―― 11P
- 井手町のボランティアサークル紹介・編集後記 ―― 12P

再生紙を使用しています

9月議会で決まったこと

制定した条例

●井手町ふるさと応援基金条例

井手町の発展を願い、寄附されたふるさと応援基金の管理・運用についてのルールを決めたものです。（賛成全員）

改正した条例

●町営住宅等設置及び管理条例の一部改正

町営住宅から暴力団員を排除するための管理条例の一部改正です。（賛成全員）

平成20年度補正予算

●一般会計（第2回）

前年度繰越金等の精算にともなうもので、2567万円を追加するものです。（賛成全員）

●老人保健特別会計（第2回）

前年度の精算見込みによるもので、573万円を追加するものです。（賛成全員）

●介護保険特別会計（第1回）

前年度の精算見込みによるもので、1338万円を追加するものです。（賛成全員）

●水道事業会計（第2回）

井手浄水場ろ過機の更新のための設計と、配水管布設替工事のために1400万円を支出するものです。（賛成全員）

●公共下水道事業特別会計（第2回）

長期借入金の借り換えにより利子が減少したものです。（賛成全員）

規則の改正

●議会会議規則の一部改正

議会活動の範囲の明確化について

議員全員で構成する全員協議会について、会議規則で議会活動の範囲に含まれることが明確に規定されました。

提出者
議会運営委員長
丸山　久志
（賛成全員）

専決処分の報告

町営住宅入居者にたいする建物および通路部分の明け渡し等の請求を求める訴えを提起しました。（賛成全員）

同意案件

●財産取得

図書館情報システムの機器の更新を行いました。

取得金額　1213万円
取得の相手方
㈱ケーケーシー
情報システム
取得の方法
一般競争入札
（賛成全員）

自治功労者

（賛成全員）

福田　宏司　氏
井手西垣内

杉山　吉次　氏
井手西前田

宮本　安　氏
井手宮ノ本

八木　勲　氏
多賀判ノ地

町政を問う

一般質問に7人の議員が登壇

森田　泰雄　議員
- 多賀白坂地区の開発について

岡田　久雄　議員
- ふるさと納税制度について
- 妊婦が安心して暮らせる優しいまちづくりについて

岩田　　剛　議員
- ハイキングコース（町道）の整備について
- 標識の整備について

丸山　久志　議員
- JR奈良線全線複線化について
- 休日、夜間の緊急医療体制について

木村　武壽　議員
- 消防車格納庫の耐震状況について
- 人口減少問題の解消や地域活性化の推進について

岡本　康隆　議員
- 多賀バイパスへ通じる道路の改良について
- 多賀北ノ代地区の再生対策について

谷田みさお　議員
- 介護保険のみなおしについて
- 水道事業について
- 火災警報器の設置について
- 火葬料補助について

白坂地区開発計画の概要は

森田　泰雄　議員

Q 原野化している多賀白坂地区の土地の有効利用は地域住民の願いである。全体の開発面積や事業の概要、施行方法や工期、開発にあたっての諸課題について伺う。

A 当地区は、市街化調整区域であるが、将来開発が見込まれる地域として、平成19年11月に京都府が策定した宇治都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」で、一般保留フレームとして位置づけられた。

本地区は、土地所有者が開発を計画している民間開発であって、流動的なところもあるが、全体計画面積約25ヘクタール、井手町域が約15ヘクタール、城陽市域約10ヘクタールで、京都府南部地域における新しい産業拠点の整備の計画となっている。

現在、府・城陽市・井手町で連絡調整会議を設置し検討を進めている。

本町としても、企業立地に向けた開発が、まちづくりや雇用対策につながるための土地利用が一日も早く図れるよう努力したい。

参与
連絡調整会議で検討中

開発が待たれる白坂地区

岡田　久雄　議員

ふるさと納税制度をどう活用

Q 居住地以外の自治体などに寄附をした場合、個人住民税などが軽減される「ふるさと納税制度」が本年5月にスタートした。

この制度導入において は自然・文化等の地域資源豊かな本町を全国的にアピールする方策を考え、税収アップにつなげる必要がある。

この制度の概要と取り組みについて伺う。

A 総務西島理事

本年4月の地方税法等の改正により、ふるさとに貢献したい、ふるさとを応援したいという納税者の思いを活かすために、都道府県・市町村に対する寄附金制度（ふるさと納税制度）が拡充された。

内容は寄附金のうち、5千円を越える部分について、個人住民税所得割の約1割を上限として、所得税と合わせ税額が控除される。

本町の取り組みは、町内の各種団体から委員17人による検討委員会を設置した。

委員会では、この制度で寄附をした人の思いをどう活かすか、より多くの寄附を募るための方策について議論してきた。

事業メニューは

①自然・環境保全
②歴史・文化継承
③安心・安全まちづくり
④ふるさと活性化

に関する事業の4つの柱からなっている。

PRの方法は町のホームページ、広報誌等により、制度の概要と本町の取り組みを町内外に、広くPR、紹介者カードなどを活用し、本町の活性化につなげたい。

町の活性化につなげる

妊婦に優しいまちづくりは

Q 女性と子供が安心・安全に暮らせる社会でなければ少子化は止まらない。

マタニティマークの導入と公共施設に妊婦と弱者に配慮した駐車スペース確保についての考えを伺う。

A 民生池田理事

妊婦に優しい環境づくりを目的に、本年1月から母子手帳の交付と合わせマタニティキーホルダーを配布。

公共施設の駐車場は昨年度にバリアフリー検討委員会を設置し、今年度身体障害者専用駐車場を設置する。妊婦などの駐車スペースの確保については、検討委員会で検討する。

バリアフリー検討委員会で検討

専用駐車場標識の一例

岩田　剛　議員

ハイキングコースの整備を

Q 本年、大正池と万灯呂山が、府の景観資産に登録された。

さらに、玉川が平成の名水百選に選定されるなど、豊かな自然に恵まれた本町が広く認められた記念すべき年となった。

すでに住民団体による保全活動が展開されているが、これを契機に全住民を巻き込んだ自然の保全活動を展開していかなければならない。

観光客数も年々増加し、昨年は桜まつりだけでも5万人を突破、「椿坂」や駅前休憩所「さくら」の設置などにより、徐々に受け入れ態勢も整ってきたが、山背古道やハイキングコースに指定された町道の整備は遅れている。

道路標識や案内板の整備、路面整備には一層の努力が必要だ。

特にハイキングコースは、継続的なメンテナンスが必要である。

現在、ハイキングコースの維持は、どのような計画の下に実施されているのか。特に林道の整備計画はどうか。

事業中島理事

住民協力のもと維持管理に努める

A 山吹ハイキングコースは、町道及び府道を利用したコースであり、道路・不法投棄巡回パトロールで維持管理している。

また岩坂池を通る町道35号や、万灯呂山展望台の入り口を通る町道49号は、多賀財産区により、草刈りなどのご協力をいただいている。

通報や要望があれば補修などを実施、ハイキングや山林施業、耕作などに支障が出ないよう努めている。

道路標識や観光案内板などについては、町での維持管理のほか、ふるさとガイドボランティアの協力で、設置や補修に協力をいただいている。

ハイキングコースの整備計画は、とくに持っていない。

標識の整備を

Q 町の公共建造物のそばに「暴力追放のまち」などのキャッチフレーズが書かれた標識が立っている。

標識の文字がはげ落ち判読すらできない状況だ。早急に対処するよう以前にも要望したが、1年以上も経過しているのに、いまだに放置されたままだ。

この標識は国道24号線からもよく見え、現状ではまことに恥ずかしい状態である。早急な対応を求めたい。

小・中学校や各種団体から標語を募集し、時代にあった新しいキャッチフレーズに書き換えてはどうか。もっとインパクトの強い標語にすべきと考えるが。

総務西島理事

今年度から整備

A 8基ある啓発塔を調査したが、その内6基は文字が薄くなっているため、内3基を今年度に整備する。残る3基は次年度整備する予定。

キャッチフレーズの指摘については、使用中の4つの標語は、今日でも取り組むべき重要な行政課題でもあり、現状のままとしたい。

文字が薄くなった啓発塔

丸山　久志　議員

JR奈良線全線複線化は

Q みやこ路快速の玉水駅停車で、利便性が向上した奈良線だが、単線区間の待ち時間や本数などで、木津川左岸地域に比べて課題がある。

木津川右岸地域の本町にとって、奈良線の全線複線化は何としても実現しなければならない課題である。

JR奈良線複線化促進協議会（促進協）の会長である町長に実現に向けての見通しを伺いたい。

町長

関係機関へ強く要望

A 利便性の向上や活性化、若者の定着、Uターン・Iターンを進めるためには、全線の複線化や大阪方面への直通列車の実現が必要であり、以前から働きかけてきた。

平成13年には、京都～藤森駅・宇治～新田駅の複線化事業が完了した。電車の本数も増加し、所要時間も短縮され、利便性・快適性が向上した。

しかし、現状の奈良線では、単線区間があるため、今以上に電車の増発も望めない状況だ。

木津川右岸地域の発展には、全線の複線化がぜひとも必要だと考える。

JR山陰線の京都～園部駅の複線化事業が進み、平成22年の春に完成予定。

乗車人員等の関係から、厳しい状況ではあるが、引き続き複線化実現に向けて関係機関へ強く要望している。

今後も促進協を通じ、沿線市町とも連携し一日も早く全線複線化ができるよう努力する。

早急な複線化が望まれるJR奈良線

夜間の緊急医療体制は

Q 休日や夜間の緊急医療は、医師不足等で病院をたらい回しにされ手遅れとなり、尊い命が失われるケースが起こっている。

本町では他市町の病院に依存しているが、これまでそのような事故が起こっていないか。

今後起こりうるケースとしてどのように対処していくのか。

総務
西島理事

休日応急診療で対応

A 日・祝日並びに年末年始に緊急な医療が必要となった場合、京田辺市・八幡市で開いている休日応急診療事業に本町も協定を結んでおり、そこで診療してもらうことができる。

京田辺市消防署によると、これまでのところ病院をたらい回しにされるなどの事案は起こっていない。

起こりうるケースとしての対応として、小児救急医療体制は、山城北保健所が窓口となり、近隣病院に当番制で小児科の当直を置くことで対応している。

近隣市町には多くの救急病院があり、現在のところ緊迫したところまできていない。

木村　武壽　議員

消防車格納庫の建て替え計画は

Q 本年7月の第20回京都府消防操法大会で、本町消防団第1分団第4部（上井手）が、見事に念願の初優勝を遂げられ、心からお祝い致します。

現在、各消防分団が使用しいる消防車の格納庫は、狭くて使いにくく老朽化も進み、耐震不足も指摘されていると聞くが、今後の建て替え計画は。

耐震化が待たれる消防車庫

協議終了後に実施予定

総務西島理事

A 現在、消防団と協議を進めており、内容がまとまり次第、建設や移設を行う予定。

テレワーク推進のまちへの考えは

Q 土木建設の町として全国有数の業者比率を維持してきた井手町も、バブル崩壊後は270社あった業者が3分の1以下となり、現在も斜陽化が進んでいる。

町は国や府の協力を得て橋や道路の整備、玉水駅への快速停車、工場誘致など多くの事業に取り組み、活性化を図っているため人口は微減で推移している。

今後もこれまで同様の政策を進めるためには、合併するか人口を増やす必要がある。

合併は本町だけではどうにもならないため、人口を増やさなければならず、テレワーク推進の町にして人口を増やしてはどうかと思う。

国土交通省によると就業人口に占めるテレワーカーの割合は、2002年度で6%、2005年度で10%と急増している。

2010年度には20%にするという目標があり、それを達成するため「テレワーク人口倍増アクションプラン」に基づいて関係4省が連携しながら施策を推進している。

本町は里山の原風景が残る自然豊かな地でありながら、京阪神への利便性も高く、その地の利を活かして、在宅勤務であるテレワーカーという新住民を迎えてはどうかと考えるが。

調査・研究を進める

総務西島理事

A テレワークは、情報通信技術を活用した場所と時間にとらわれない柔軟な働き方で、仕事と生活の調和を可能とし、多様な就労機会や起業・再チャレンジの機会を創出するもので、国をあげて取り組んでいる。

アクションプランではテレワークにより、育児・介護と就労の両立、家族と過ごしたり自己啓発などの時間の増加、起業等での地域活性化が図られ、企業では有能な人材の確保、オフィスコストや交通費削減等のメリットがある。

現行制度のもとでもテレワークの実施は可能だが、企業側のシステムやセキュリティー、制度環境の整備が必要である。

現在、国はテレワークを推進するための実証実験や、環境整備等を進めているため、その経過を注視しながら調査・研究を進めたいと考えている。

岡本　康隆　議員

多賀バイパスへ通じる町道の拡幅を

Q 多賀地区内から多賀バイパスへ通じる町道は道幅が狭く、自動車の通行が困難であるばかりでなく、朝夕には通勤や通学の人が多く大変危険である。

一部供用が開始されたバイパスではすでに交通事故が発生している。

全面開通すれば、多賀地区内とバイパスを結ぶ町道の通行量が極端に増加すると予想される。

町道の拡幅を含めて効率のよい交通安全対策の考えは。

A 町長

道路整備に努める

多賀バイパスと交差する町道は幅員に余裕がないが、拡幅が困難なことから道路交通標識等で安全を確保したい。

多賀バイパスの整備効果を活かすためにも、市街地と連絡する道路整備は必要であり、できるだけ早く整備できるよう努力する。

狭い町道とバイパスの交差点

多賀北ノ代地区の再生は

Q 多賀北ノ代地区は湿田地帯のため、機械作業が困難であることや、ほ場整備が未実施であり、米の生産調整等々の理由から一部を除き休耕状態である。

多賀バイパスの開通にともない、本町の北の玄関口として農業面だけでなく、宅地開発も視野にいれた地域再生の検討を早急に行う必要があると思うが。

耕作放棄地が目立つ北ノ代地区

A 町長

土地の有効利用策を検討する

同地区は第3次井手町総合計画で新市街地形成地域に位置付けている。

多賀バイパスの開通を起爆剤として、土地の有効利用策を調査したうえ整備に向け検討する。

いずれにしても道路整備や宅地開発は、地域住民の理解と地権者の協力が必要である。

谷田　みさお　議員

介護保険制度の見直しは

Q 介護保険の3年ごとの見直し時期だが、今後3年間の事業量と65歳以上の被保険者の保険料改定の見通しは。

誤解が生じている生活援助サービスは、厚労省の通達で「市町村は、同居家族等の有無のみを判断基準として、一律に介護給付の可否を機械的に判断しないように」となっている。

本町の指導は。

民生 池田理事

高齢者保健福祉計画策定委員会で検討

A 本年は3年ごとの介護保険事業計画の見直し年となっており、今後高齢者保健福祉計画策定委員会で利用実績や要介護者数、必要なサービス量などの推計をもとに検討する。

生活援助サービスは、個々の状況に応じて判断し給付決定している。

水道料金の引き下げは

Q 第2水源のその後の水質検査と供用の状況は。

また水道会計の利益は累積で1億円を超えているが、料金を引き下げる考えはないのか。

上下水道 木田理事

安定供給のため料金は引き下げない

A 第2水源の水銀は、基準値を大きく下回る低減下限値前後で推移している。

供用はろ過器を更新して年内中に行う。

水道料金は、諸費用・諸資材の高騰、既設石綿管の更新・施設の耐震化等、今後も多くの費用が必要で、安定した供給を実施するためにも料金を引き下げる状況ではない。

第2水源取水施設

火災警報器の設置は

Q 消防法の改正で住宅用火災警報器の設置が義務づけられたが、本町での取り組みと町営住宅や一般住宅への普及状況は。

また、一定の障害者・老人世帯では、日常生活用具給付事業の対象であり周知徹底すべきだ。

住民の命を守るためにも、全世帯を対象とした補助制度は設けないのか。

総務 西島理事

町営住宅には設置

A 火災警報器の設置は、広報や消防署のお知らせで周知している。

町営住宅の中層耐火構造6棟は設置済み。

他の住宅は、期日までに完了予定。

一般住宅への普及は、届出義務等がないため把握できない。

また、補助制度は考えていない。

民生 池田理事

社会福祉協議会等の協力で周知

A 火災警報器給付対象者の把握は非常に困難で、社会福祉協議会等の協力を得て周知を図る。

火葬料補助について

※この質疑は省略しました。

議員研修報告

一期目議員研修会

8月11日「市町村一期目議員研修」が平安会館で開催されました。

最初に、コミュニケーションワーカーの富田富士也先生の講演で「ひきこもり」ということばは、対人関係から身を「引く」ことから名づけられ、人間関係でことばを「聞く」ことより、相手の気持ちを「聴く」ことが何より大事なことである。訴える議員から聴く議員になり、地方議員がまちのカウンセラーになってはどうかと提起されました。

次に、全国町村議長会の議事調査部長岡本光雄氏から「そもそも議会・議員は何のため、誰のため」「さまざまな議会の改革の取り組み」等研修を受けました。

有意義な研修であり、これからの議員活動に活かせていきたく思っています。

木田　鈴美
岡田　久雄

市町村議会広報研修会

議会に対する住民の理解と関心を深める努力が強く要請されていることから、議会広報の編集技術等を習得することにより、真に開かれた議会の実現に役立つことを目的に「市町村議会広報研修会」が、8月26日にルビノ京都堀川で開かれました。

当日は、府下市町村議会の広報編集委員の議員や議会事務局約130人が出席し、井手町議会からも6人の委員全員と事務局が出席致しました。

この研修会は、毎年開催され、各広報編集委員から好評を得ているもので、全国的にみても京都府の編集技術のレベルが高いのは、この研修会の功績だと思います。

本町の広報編集委員は、今年6月に6人中5人が新しくなったため、非常に良い研修会となりました。

講師には、広報コンサルタントの深沢徹先生が招かれ、議会広報編集のノウハウや、府内の市町村議会が発行している11市町村の広報紙をもとに

①編集の基本
　姿勢
②文書・用語・
　表記
③編集・印刷
　技術

などについて講義を受けました。

特に注意する点は、

①読者の目線になる
②役所言葉は使わない
③簡潔で正確に

などで、これからの広報紙作りの参考になりました。

委員会報告

総務文教常任委員会

委員長　古川　昭義

9月17日に、総務文教常任委員会を開き、本会議から付託された議案を審査しました。
内容は、次のとおりです。

議　案　井手町ふるさと応援基金条例制定の件

出席者
委　員　古川昭義　森田泰雄　木田鈴美　丸山久志　中坊　陽　木村武壽
事務局　鈴木局長
行　政　汐見町長　中谷副町長　西島理事　小川税務課長　中島企画財政課長

審査内容（要旨）

Q　この条例の内容は国から指導されたのか独自のものか

A　町独自で内容を検討して作成した。

Q　この条例を作成するための委員17人の選考方法は

A　まちづくり協議会の11団体のほか、体育協会・青少年を育てる会・井提保勝会・NPO大正池サポートセンター・NPOナチュラル・NPOエコ井手創造プロジェクトの各団体から1人ずつ参加。

Q　寄附者の具体的なメリットは

A　都道府県または市区町村への寄附金のうち5千円を超える部分は、個人の住民税の所得割のおおむね1割を上限として、所得税とあわせて税額控除される。
例えば3万円の寄附があった場合、2万5千円相当が所得税・住民税あわせて税額控除される。

Q　PRなどの積極的な働きかけが必要だ

A　ホームページ・広報・紹介者カードでPRするが、他の方法も検討中。

Q　PRなどで具体的な事業内容を示しては

A　検討委員会から玉川の水環境保全・桜並木の育成保全・源氏ボタルやカジカガエルの保護、文化財の保護・橘諸兄・小野小町の伝承などをPRしてはどうかとの意見もあり検討中。

Q　今日までに寄附の申し込みはあったのか

A　6月時点で3万円の寄附があった。

質疑終了後に賛成討論があり、採決の結果、賛成全員で可決しました。

意見書

地方の道路財源の確保に関する意見書

提出者　岡本　康隆　議員

道路は、地方の生活を支える最も重要な社会基盤であり、広域的な地域間連携、活力ある地域づくり、安全・安心な環境づくりを推進するために必要不可欠である。
京都府南部地域における道路整備は、通行難所の解消、交通安全対策、防災や環境対策、都市部における慢性的な交通渋滞の解消など、まだまだ多くの課題が残されており、道路整備に対する住民の要望は切実である。
本町においても通勤・通学路等の安全対策、幅員が狭小で歩道もない危険な道路、慢性的な交通渋滞など、多くの課題を抱えており住民の道路整備に対する期待は大きく、安全で安心な道路整備等が必要であることからその財源の確保が不可欠である。
よって、国におかれては、道路特定財源の一般財源化に際して、このような地方の実状を深く認識され、左記事項を実現されるよう強く要望する。

記

1　道路特定財源の一般財源化に当たっては、地方の意見を聴くとともに、地方の道路整備の実状に十分配慮し、地方が真に必要としている道路整備を遅らせることがないよう、必要な財源を確保し、地方への配分を高めること。
2　地方の自主性・裁量性を生かし、地域の道路整備に大きな役割を果たしてきた地方道路整備臨時交付金を継続、又は同等の代替制度を確立すること。
3　道路特定財源の暫定税率の失効に伴う地方税収の減収分については、国の責任において確実に財源措置を講じること。

京都府綴喜郡井手町議会
（賛成全員）

井手町のボランティアサークル紹介

介護ボランティア“ポッポ”

代　　表　栗田　由美
会 員 数　10人
結　　成　平成8年1月24日
活動場所　老人福祉センター（玉泉苑・賀泉苑）
　　社会福祉法人弥勒会 いでの里
　　井手町デイサービスセンター

- 老人福祉センターでの生き生きふれあいサロンに参加協力する。
- いでの里の入所者、デイサービスセンターの利用者の入浴後のヘアドライやお茶等の飲物を配ったり話し相手をする。
- 会員数が少ないので各月１回ずつ２人で組み活動をする。夏祭りや臨時の行事等で必要とされる時は参加協力する。

興味のある方のご連絡をお待ちしています。

子育て支援グループ「ハッピーママ」

代　　表　巽　敦予
発　　足　平成16年3月8日
活動日時　毎月第2金曜日　10:30～12:00
活動場所　山吹ふれあいセンター
参加者数　親子10組前後

　少し手の空いた先輩ママたちで、赤ちゃんの子育てをサポートしています。子育て中のママたちは外にも出にくく、気軽に相談できる人がいなくて家にこもりがちです。この大変な時期の新米ママたちに寄り添い、アドバイスをしたり、赤ちゃんたちを見守りながら、ママがほっと一息つけるように、子育てが楽しくなれるように応援しています。
　スタッフはみんな、ほのぼのと温かい人柄なので、とてもアットホームですよ！
　先輩のスタッフから園や学校に通う子どもさんを育てる中での思いや悩みなども聞けて、長いスパンで「子育て」をとらえられるよい機会ともなっています。

議会広報編集委員

委員長　岩田　剛
副委員長　木田　鈴美
委員　岡本　康隆
委員　森田　泰雄
委員　村田　忠文
委員　中坊　陽

編集後記

秋も深まり過ごしやすい季節になってまいりました。色々な行事も終わり、関係者・住民の皆様にはホッとひと息ついておられることだと思います。
　本町にとってこの一年は、大変心に残る年になりました。
　名水百選・多賀バイパス開通・合併五〇周年ととても喜ばしい年になりました。これも住民皆様の温かいご協力のおかげです。この町に住んでいてよかったと思えるようこれからも井手町を愛して下さい。
　今後も住民の皆様に親しまれる議会だよりが発行できますよう努力してまいります。
　皆様のお声をお聞かせ下さい。

S・K